

# Japan Datacenter Facility and Colocation Strategies (Japanese Version)

AN IDC CONTINUOUS INTELLIGENCE SERVICE

クラウドサービスの拡大などにより事業者データセンター（DC）の建設需要が拡大しています。一方、企業内 DC ではクラウドへの移行に伴う DC 統廃合が進んでいます。IDC Japan 年間情報提供サービス「Japan Datacenter Facility and Colocation Strategies (Japanese Version)」では、DC サービス事業（コロケーション／ホスティング／クラウド）、および建物／電源設備／冷却システムなどの DC ファシリティ投資を対象として、主要な市場について 2022 年～2026 年の予測およびユーザー動向の調査／分析を行います。特に 2023 年のプログラムでは DC におけるサステナビリティに関する調査を追加します。

## Markets and Subjects Analyzed

- データセンターのサイト数／延床面積／電力キャパシティ
- データセンターファシリティ新設／増設投資額（UPS および冷却システムを含む）
- データセンターサービス（コロケーション、ホスティング、クラウド IaaS）

## Core Research

- 国内データセンターのサイト数／延床面積／電力キャパシティの予測（事業者 DC、企業内 DC）
- 国内データセンターファシリティ市場の実績と予測（事業者 DC、企業内 DC）
- 国内データセンター管理者調査：運用課題と投資動向に関するユーザー調査
- 国内データセンターサービス市場（コロケーション／ホスティング／クラウド IaaS）の実績と予測
- 国内データセンターサービス事業者のビジネス動向
- 国内データセンターにおけるサステナビリティの動向
- IDC FutureScope: Worldwide Future of Digital Infrastructure 2023 Predictions - Japan Implications

上記リサーチは市場環境などの変化に応じて変更される可能性があります。発行レポートをご覧になりたい場合は以下 Web サイトをご参照ください。： [Japan Datacenter Facility and Colocation Strategies \(Japanese Version\)](#)。

## Key Questions Answered

- 国内データセンターファシリティの建設投資規模はどのくらいか？
- 国内データセンターファシリティの保守／更新市場規模はどのくらいか？
- 事業者データセンターと企業内データセンターにおいて、どんな課題やニーズがあるのか？
- 国内のデータセンター数、規模、電力容量はいくらか？今後その数はどうなるのか？
- データセンターサービス（コロケーション／ホスティング／クラウド IaaS）の国内市場の規模はどのくらいか？今後の成長率は？
- データセンターサービス事業者の課題は何か？
- データセンターにおける再生可能エネルギー利用の課題は何か？

## Companies Analyzed

IDC では、次のベンダーの企業戦略、競合状況などの比較／分析を行います（アルファベット順、50 音順）。

Colt、IBM、IDC フロンティア、IIJ、KDDI、NEC、NTT コミュニケーションズ、MC デジタルリアルティ、NTT データ、NTT ファシリティーズ、SCSK、TIS、アット東京、伊藤忠テクノソリューションズ、エ

クイニクス、京阪神ビルディング、さくらインターネット、清水建設、シュナイダーエレクトリック、大成建設、竹中工務店、日鉄ソリューションズ、日立、富士通、富士電機、三菱電機、その他